

全国安全行動日に合わせて街宣行動 福知山脱線事故から20年が経過 二度と悲惨な事故は起こさせない



国労岡山は4月25日に全国安全行動日と合わせて安全問題である福知山脱線事故と近隣住民の足であるローカル線問題を守るための行動を行なった。

福知山脱線事故から20年の節目であり、二度と悲惨な事故は起こしてはいけないための街宣行動である。

行動内容は新見駅、神代駅、



市岡駅、野馳駅、矢神駅、東城駅にてチラシ配り街宣行動を岡山地本、退職者の会、岡山県労会議、新見市議の仲間たち28名の参加のもと行動を行なった。

実際にローカル線に乗って現状を把握しないと解らないので列車に乗り乗客に呼びかける班と車で各駅に向かい街宣・チラシ配りをする班と分かれて行動を行なった。

新見駅から東城駅にかけて小林委員長、青山書記長が安全と公共交通の確立について福知山脱線事故から20年が経過し107名の尊い命が奪われ、563名の負傷者が発生するという、これまでの鉄道事故の歴史から見ても未曾有の大惨事になった。国労は「福知山脱線事故を忘れない！そして、こうした事故を繰り返してはならない！」との決意に立ち、JRの安全確保を求める取組強化、安全・安心の公共交通をめざし奮闘し二度と事故が起こらない様に企業体質改善を訴えた。だが、JRはコロナ禍を契機に人減らし合理化、業務委託施策を押し進め安心・安全とはかけ離れた無人駅を進め人員・技術継承などもできなく教育不足による保守・点検の技術低下により輸送の安全が大きく脅かされている。



コロナ禍を口実に人員削減や無人駅化は利用客の利便性を無視している。

許せない施策は断固として阻止せねばならない安心・安全・地域の足・ローカル線を守るため声を上げていこう！